

# ほっかいどうの社会保障

2011年9月9日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:011-758-4666

## いよいよあさって「社保学校 in 札幌」に集まろう！ 二宮講演は9月11日午前10時からです

いよいよあさって「北海道社会保障学校 in 札幌」は、かでの2.7で行われます。今回のテーマは、「大震災からの復興と権利としての社会保障の確立めざして」です。二宮厚美さんの記念講演「3.11後の情勢と新たな社会保障をする運動」は10時からです。午後は4つの分科会。第2分科会「貧困の広がり、生活支援の取り組み」では札幌司法書士会からも報告していただくことになりました。

8日現在の申し込み数は250名で、まだ参加する予定で申し込みがすんでいない方もいます。誘い合って参加して、大いに学んで、社会保障を拡充させる運動を広げましょう。



## 重症心身障害児・者が在宅で安心して暮らせるように

### 札幌市議会へ9046筆の署名提出！

「重症心身障がい児・者の在宅支援に取り組む会」と「重症心身障害児（者）を守る会」の署名は、マスコミでも取り上げられ、9月5日現在で札幌市へ向けは9046筆、国向けは1万筆を超えています。

9月6日、札幌市議会に対して陳情署名を提出しました。提出に先立ち、代表の辰巳研一医師（小児科）を先頭に市議会各会派に要請。日本共産党、自民党・市民連合、公明党、市民ネットワーク北海道、市民改革クラブと懇談でき、「脳性麻痺のある乳児の場合は、介護する親は、まとめてとれる睡眠時間は2時間たらず」と現状を訴えると、どの会派の代表も「とても大切な問題」「以前ご家族からも相談を受けたがあるが現状では制度が不十分」など好意的な反応でした。後日、民主党・市民連合、みんなの党への要請する予定です。会では引き続き署名を集め、国への署名にも10月中旬に提出予定。



## 平和と健康は幸福の必須条件 被災地では憲法が話題に

9月4日、第54回北海道母親大会が行われ、日野秀逸東北大学名誉教授（医学博士・経済学博士）が、「いま、憲法を生かすとき～東日本大震災の現場から語る」と題して記念講演を行いました。



被災者でもある日野氏は、子どもの時に体験したチリ地震津波と比べて規模が2ケタ違うと紹介。復興に向けては、憲法の生存権確立を含む「学会会議声明」も説明。

被災地では、自己責任だと頑張ってきた事業主が財産を失い生きる意欲をなくしたが、憲法を全てよみ25条の「健康で文化的な生活は国の責任」を見つけ元気になった。「住民の福祉の増進を図る」との地方自治法も話題になっている。

80年代から30年続いた自己責任にもとづく新自由主義、金儲け優先、大企業優先の政治が進められた。社会保障も破壊され、絆や社会的基盤も弱体化され、事態をさらに悪化させた。企業倒産、非正規職員、完全失業者も増え労働者の給与も減った。この政治の転換なくして復興はない。しかし民主党はさらに社会保障を改悪し消費税を増税しようとする。「日本の経済は世界一の黒字、問題の政府部門も実は黒字、国債の国際比較でも欧州と変わらない」など資料を示して紹介し、所得の再分配、生活費非課税など近代社会が作った税制の原則なども紹介して、財源は大丈夫と説明し、社会保障を充実して、個人消費を豊かにし、憲法9条と25条に立脚した社会をつくっていくこうと呼びかけました。